

## 財務状況を全般的に説明する資料 2022年度 学校法人藍野大学 決算の概要

2022年度決算は、2023年5月29日に開催された学校法人藍野大学理事会及び評議員会において承認決議されました。

2022年度は、明浄学院高等学校の設置者変更により、明浄学院高等学校にかかる財産（資産・負債）を引き受けるとともに、明浄学院高等学校の事業活動収支を通期で取り込んだ影響が特筆すべき事項として挙げられます。

### (1) 資金収支決算

学校法人の諸活動に対応する、すべての収入・支出の内容を明らかにするために作成されるのが、「資金収支計算書」です。「活動区分資金収支計算書」は、資金収支計算書の内容を教育活動・施設整備等活動・その他の活動の活動区分ごとに収入・支出を一覧表示し、現金預金の流れをより分かりやすく把握・説明するために作成されます。

2022年度決算は、資金収支計算書の前年度繰越支払資金2,828百万円から、当該年度の収入・支出を加減した結果、翌年度繰越支払資金2,247百万円(前年度比▲581百万円、予算比+96百万円)となりました。この主要因として2020年度に締結された明浄学院高等学校への支援契約に係る貸付金が、同校の設置者変更に伴い、同校への貸付額の残余金425百万円を一般寄付金として計上したことが挙げられます。

また、活動区分資金収支計算書では、本業である教育活動の収支バランスを示す教育活動資金収支差額が+1,197百万円となり、これに施設・設備の取得又は売却その他これらに類する活動の収支である施設設備等活動資金収支差額▲549百万円を加味した結果、+648百万円となりました。

### (2) 事業活動収支決算

学校法人の教育活動、教育活動以外の経常的な活動、それ以外の活動に係る事業活動収入と事業活動支出の内容を明らかにし、当該会計年度の諸活動に対応する全ての事業活動収入及び事業活動支出の均衡の状態を明らかにするために作成されるのが、「事業活動収支計算書」です。資金収支計算と異なり、資金収支を伴わない現物寄附や減価償却費が計上されるなど損益計算書に似た内容です。学校法人は営利目的の活動を行っていないため、一般の企業のように損益計算を行う必要はありませんが、持続的な運営そのものは要請されているため、事業活動収支の均衡状態を把握するために作成されます。

2022年度決算は、教育活動収入が5,133百万円(前期比+972百万円、予算比+60百万円)なり、教育活動支出が4,494百万円(前期比+565百万円、予算比▲123百万円)となりました。前年比における差額要因には、明浄学院高等学校の事業活動収支を通期で取り込んでいる影響があります。学生生徒等納付金3,641百万円(前期比+387百万円、予算比+7百万円)には、明浄学院高等学校以外にもびわこりハピリテーション専門職大学の学年進行、藍野大学看護学科及び理学療法学科の定員増加による影響があります。経費については、資源高や円安を背景とする水道光熱費の増加などがあったものの、教育研究経費が1,453百万円(前期比+212百万円、予算比▲54百万円)、管理経費は494百万円(前期比+71百万円、予算

比▲57 百万円)となり、教育活動収支差額 639 百万円に借入金利息等の教育活動外の収支を加味した経常収支差額は、632 百万円(前期比+415 百万円)となりました。

特別収支においては、明浄学院高等学校の設置者変更に伴う資産(主に校地校舎)の無償譲渡と債務の引継ぎによる資産(時価)・負債の差額 4,134 百万円を現物寄付として計上しています。

その結果、基本金組入前当年度収支差額は、4,799 百万円となり、基本金組入額合計▲5,981 百万円を加味すると、当年度収支差額は▲1,182 百万円となりました。

### (3)貸借対照表

貸借対照表は、年度末における資産、負債、純資産(基本金、繰越収支差額)の状態すなわち財政状態を把握するために作成されます。学校法人の貸借対照表は、固定資産が重要な位置を占めるため、資産の部が固定資産、流動資産の順に表示される「固定性配列法」を採用しています。また、資本金に代わって「基本金」という概念が使われている点が特徴です。

2022 年度決算は、明浄学院高等学校の設置者変更に伴い、明浄学院高等学校の資産、負債を引き継いでいます。また、明浄学院高等学校を支援するため行っていた学校法人明浄学院への貸し付け 1,300 百万円が設置者変更に伴って当法人の貸付金と相殺されています。また、市中銀行からの借入金 1,000 百万円を一括返済しています。2021 年度から推進している大阪阿倍野キャンパスプロジェクトに係る校舎建設等により、2022 年度は 284 百万円の設備投資を行っています。この工事は 2025 年 4 月竣工を予定しています。

2022 年度の教育研究活動の結果、当法人の資産総額は 21,949 百万円(前年比+3,615 百万円)、純資産は 16,603 百万円(前年比+4,798 百万円)となりました。また、当法人が財務戦略上の目安としている日本私立学校振興・共済事業団が示す定量的な経営判断指標に基づく経営状態の区分は、正常状態を示す A 区分の「A3」から「A2」に向上させることができました。

今後、2024~25 年にかけて、大阪阿倍野キャンパスプロジェクト及びびわこ八日市キャンパスの施設整備計画、2027 年度を最終年度とする藍野大学・大学院 2 研究科 3 学部 6 学科 1 専攻科への改組転換など大きなプロジェクトが予定されています。AI・IoT の急速な技術発展、with コロナ時代など刻々と環境が変化する時代ではありますが、多様な経営指標に基づき実態把握を行うとともに、経営計画や目指す姿を注意深く見極め、様々な協創を通じて地域社会に貢献できる学校法人としてさらなる発展を目指します。

(注)本文中の金額については、百万円未満を四捨五入しているため、説明中の数値合計と計算書類は一致しない場合があります。